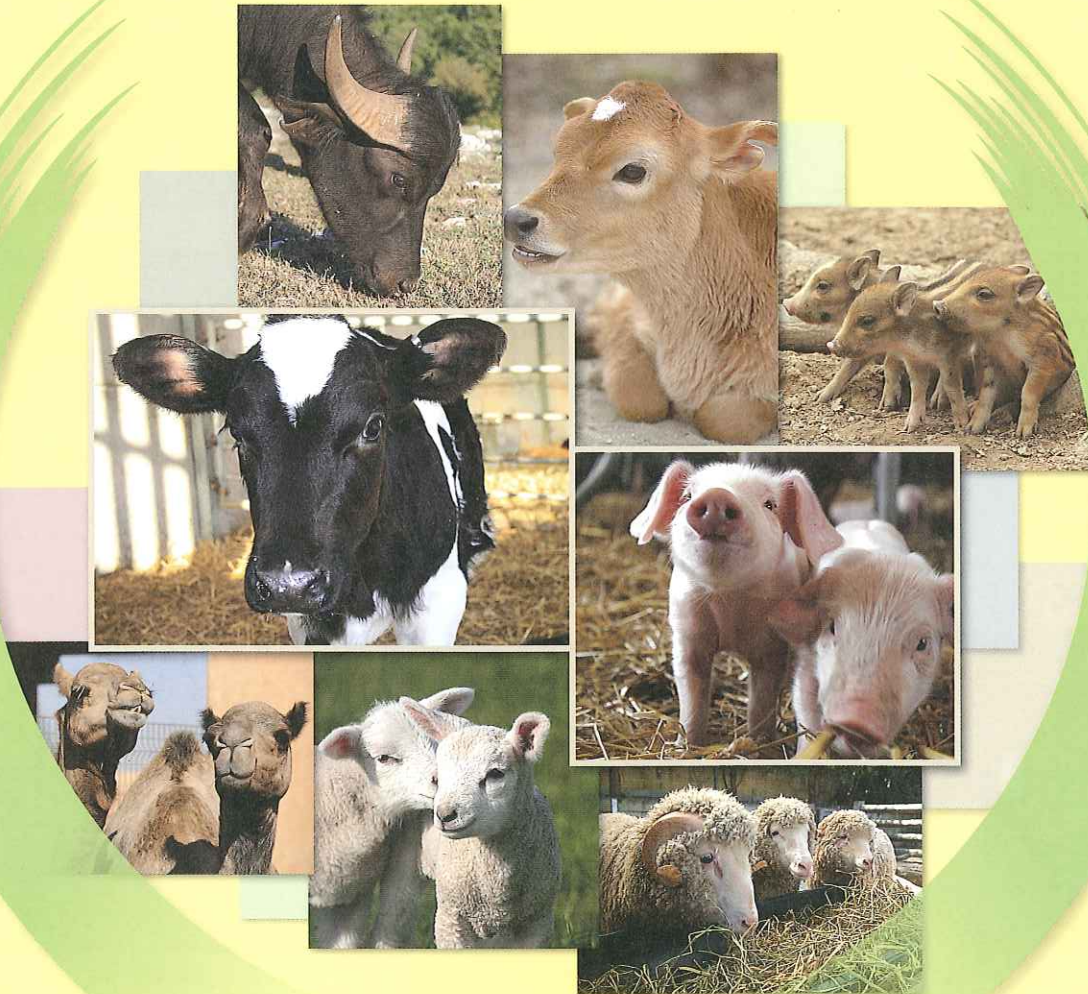


口蹄疫から 家畜を守るために



平成23年1月

社団法人 中央畜産会

口蹄疫とは

口蹄疫は、牛、豚、羊、山羊、水牛等がかかり、伝染力が非常に強い家畜伝染病で、ひとたび発生すると家畜の生産性の低下や死亡等により甚大な被害を受けます。平成22年4月に宮崎県で発生した口蹄疫では、多数の牛、豚等が被害に遭いました。また、現在も韓国、中国、モンゴル、ロシア等近隣諸国で口蹄疫が発生しています。

次のような症状や変化を見つけたら **まず口蹄疫**

1. 症状は、牛、豚、羊に共通して、急に熱を出す、食欲がなく

牛の場合

- よだれを沢山たらし(写真1)。
- 唇、歯ぐき、舌、蹄及び乳房周囲の皮膚に水疱すいほうができ、すぐ破れてびらんかいようや潰瘍になる。
 - ①唇や歯ぐき、舌に水疱(写真2)や潰瘍(写真3)ができると、痛くて物が食べられなくなる。
 - ②蹄の周りに水疱、潰瘍(写真4)ができると、痛くて歩くのをいやがる。
 - ③乳房に水疱(写真5)、潰瘍(写真6)ができると、泌乳量が急激に減少する。



写真1 口からのよだれ



写真2 舌の水疱



写真3 上唇のびらん、潰瘍



写真4 蹄の潰瘍



写真5 乳頭部の水疱



写真6 乳頭部のびらん・潰瘍

なお、感染しても症状は多様で、必ずしもこのような症状や病変が見られない場合もあります。

このため、生産者、行政、関係者が一体となった万全の対策で侵入防止に心がけ、早期発見、迅速な防疫措置（発生地域の家畜の移動制限、発生農場や車両の消毒及び感染家畜のとう汰と埋却等）に努めることが必要です。



を疑い、直ちに獣医師に連絡しましょう

なる、複数の個体が異常を示す他、以下の変化がみられます。

豚の場合

- 足、鼻、歯ぐき、舌等に水疱（鼻：すいほう写真7）ができ、すぐ破れてびらんや潰瘍（鼻：かいよう写真8）になる。
 - ① つめの周りに水疱、びらん・潰瘍（写真9）ができると、痛くて歩くのをいやがり、立てなくなったり、犬のような座り方をする。つめが剥がれる（写真10）と、歩けなくなる。
 - ② 歯ぐきや舌に水疱ができると、痛くて食欲がなくなる。
 - ③ 乳房に水疱、潰瘍（写真11）ができると、授乳をいやがる。（子豚へ感染が広がる。）
- 死亡率が高くなることがある。（子豚では顕著にみられる）（写真12）。



写真7 鼻の周囲の水疱

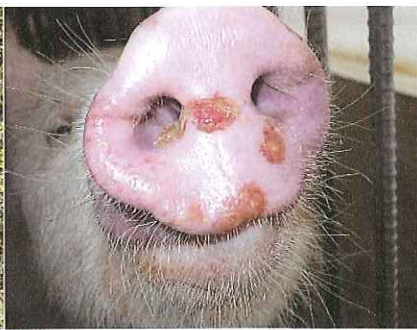


写真8 鼻鏡のびらん



写真9 足の潰瘍と出血



写真10 蹄の脱落



写真11 乳房及び乳頭の水疱とびらん

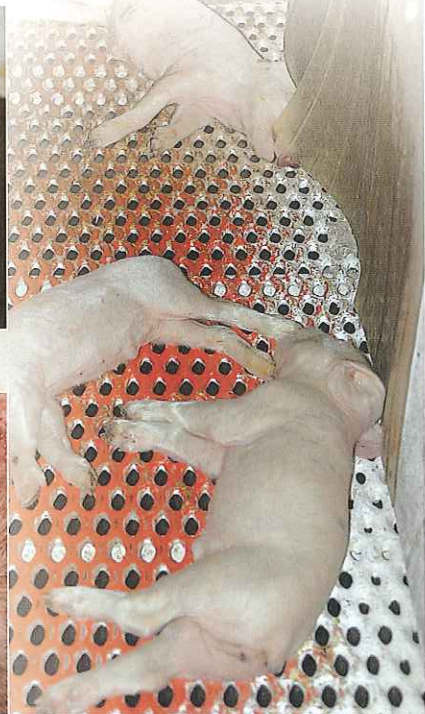


写真12 口蹄疫に感染して死亡した子豚

なお、感染しても症状は多様で、必ずしもこのような症状や病変が見られない場合もあります。

2. 口蹄疫から家畜を守るために — 予防の徹底が大切!

1) 飼養衛生管理の徹底

口蹄疫の発生を防ぐためには、**家畜伝染病予防法に基づく飼養衛生管理基準を守り、各農場での飼養管理・衛生管理を徹底し、ウイルスの侵入を防ぐことが大切です。**具体的には、

- 関係者以外の農場への立ち入りは断りましょう。
- 畜舎、器具の清掃・整頓を常に行いましょう。
- 畜舎、器具は定期的に消毒しましょう。
- 農場、畜舎の出入り時は車、長靴、作業服等の消毒を十分に行いましょう。
- 防鳥ネットの設置や残餌の処理等に努め、野生動物の畜舎への侵入を防止しましょう。
- 飼料及び水に家畜及びネズミ、野鳥等の排泄物が混入しないよう努めましょう。
- 畜産関係者は、口蹄疫が発生している地域への農場視察旅行等は避けましょう。
- 家畜の観察を毎日行い、異常があれば直ちに獣医師または家畜保健衛生所に連絡しましょう。

2) 消毒の徹底

消毒は、農場入口（農場に入る前に全ての車両や器具等の消毒）、農場内の外部車両が停車する場所、畜舎出入口の踏み込み槽（汚れたら直ちに交換しましょう）、畜舎周囲・農場外縁部等でしっかり行いましょう。

(参考) 口蹄疫に効果があるとされている消毒薬（農林水産省のホームページから）。

分類	商品名	効果が認められる最高希釈倍数(注)
ヨウ素系消毒薬	クリンナップA	400倍
	ファインホール	400倍
	バイオシッド30	1,000倍
塩素系消毒薬	アンテックビルコンS	2,000倍
	クレンテ	2,000倍
	スミクロール	1,000倍
アルデヒド系消毒薬	グルタクリン	800倍
複合消毒薬	アリバンド	400倍
NaOH(水酸化ナトリウム)添加消毒薬	クリアキル-100(NaOH添加)	2,000倍

注1: 感作条件は室温30分、承認された用法・用量の範囲内で効果が認められる最高希釈倍数。

注2: 塩素系消毒薬は、消石灰等の強アルカリ性のものが混ざると塩素による消毒の効力が発揮できないので、消石灰等のアルカリ性の消毒薬と混ぜることは避けて下さい。

消毒のポイント!

- ①消毒する前に泥や糞便、付着した消石灰等を良く落とします(写真13、14)。

消毒薬は汚れてきた場合は直ちに交換し、また、汚れていなくても消毒薬の用法・用量に定められている更新期間を守って、新しいものに交換しましょう。



写真13 畜舎の洗浄



写真14 長靴の洗浄・消毒

- ②農場に入る前の全ての車両(写真15)や器具等の消毒には、4%炭酸ナトリウム液(別名:4%炭酸ソーダ液:水1リットルに対し、炭酸ソーダ40グラムを溶かしたもの)が効果的です。

また、運転席のマットやハンドル等の消毒(写真16)

も忘れずにしましょう。

運転者などの長靴の消毒も不可欠です。



写真15 農場での車両消毒



写真16 運転席の消毒

- ③農場内の外部車両が停車する場所や畜舎周囲・農場外縁部には消石灰を散布し、消毒を徹底しましょう(写真17、18)。(消石灰は、 $0.5\sim 1\text{kg}/\text{m}^2$ ($20\sim 40\text{m}^2$ 当たり消石灰1袋20kg)を目安にホウキ等で均一に広げ、地面の表面がムラなく白くなる程度に散布しましょう。なお、散布時には直接皮膚につかないようにゴム手袋やメガネ(ゴーグル)を、また吸い込まないようにマスク等を着用しましょう。



写真17 農場内の石灰散布



写真18 農場周囲に散布された石灰

- ④口蹄疫ウイルスは酸やアルカリに対して弱いので、畜舎、畜体、踏み込み槽にはヨウ素系、塩素系およびアルデヒド系の消毒薬が使われます。

ただし、塩素系消毒薬は、消石灰等の強アルカリ性のものが混ざると塩素による消毒の効力が発揮できないので、これらアルカリ性の消毒薬と混ぜないように十分注意して下さい。

- 近隣で口蹄疫の発生があった場合には、飼養衛生管理の徹底に努め、牛、豚等の飼養関係者との接触を自粛しましょう。
- 飼っている家畜を毎日丁寧に観察し、疑わしい症状と思ったら直ちに獣医師または最寄りの家畜保健衛生所に連絡してください。
(連絡の遅れは、発生の拡大を招くことになります。)

1. お近くの家畜保健衛生所

2. 地元の市町村役場

3. お近くの動物病院

なお、口蹄疫は、牛、豚等の病気であり、人に感染することはありません。また、感染牛の肉や牛乳が市場に出回ることはありませんが、感染畜の肉や牛乳を摂取しても人体には影響ありません。

写真提供：写真1～3、5～9及び写真11、12、17(宮崎県)、写真13～16及び写真18(北海道)、写真10(吉田和生氏：動物衛生研究所)

社団法人 中央畜産会衛生指導部

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-16-2 第2ディーアイシービル9階
TEL. 03(6206)0832 FAX03(3256)9311